

日本教師教育学会国際研究交流部シンポジウム

なぜ今か、何を“再考”するのか

新たなディスコースの創造とその参照軸

2023年

3月30日

(木) 13:30~

2時間を予定

Zoomによるオンライン配信

お申込み

下記サイト、または右のQRコードからお申込み下さい。
お申込み受付後、ZoomのURL情報をメールアドレスへご案内いたします。

申込サイト <https://forms.gle/ayGSE8DtZZY9YbAx9>



※日本教師教育学会会員はお申込み不要です。(会員サイトにてURLをご案内しています)

※どなたでもご参加いただけます。(参加費無料)

司会 矢野博之 (学会全国理事・国際交流担当／大妻女子大学)

①パネラー「なぜ今なのか」 百合田真樹人 (教職員支援機構)

Rethinking Education (およびその後継) をグローバルな教育政策および研究の議論の文脈に位置づけて紹介。経済的功利性のカウンターディスコースに人間主義を位置づける国際的なプロジェクトの動向を示す。

②パネラー「研究と実践の視野の変化」 森 久佳 (京都女子大学)

ユネスコ(および OECD)での意見交換ないし、国際調査研究に参画した経験を経て、教師教育に携わる者として〈これまで〉の研究視点や教育観に生じた変化やその働きをふまえ、〈これから〉を提起する。

③ディスカッション 香川奈緒美 (島根大学)、 荒巻恵子 (帝京大学)

金井香里 (武蔵大学)、 深見俊崇 (島根大学)



“Rethinking Education” の訳者たちと一緒に考えてみませんか

2015年に刊行された“Rethinking Education”。2023年の“今”、翻訳して世に問うことの必要性和、なぜ後出の2021年報告書ではなく2015年刊行の本書からなのか、それらのちがいと、そこに立ち戻る意義をディスカッションします。教育の「何を“再考”するのか」——〈過去に対する現在〉と〈未来に向けた現在〉の二方向の〈再考〉を意図したシンポジウムです。登壇者たち自身が対話的な形を示し、「未来に向けてどうあり“たい”、どう“したい”のか」を思考するプロジェクトとして「どうある“べき”か」ではなく「どうあり“たい”か」を問い合う場を想定し、「新たなディスコースの創造とその参照軸」をみなさんと一緒に考えます。

※なお、右記の翻訳書の内容をふまえてのシンポジウムとなりますが、必読ではありません。お気軽にご参加ください。

日本教師教育学会 第10期国際研究交流部 編訳著

『ユネスコ・教育を再考する—グローバル時代の参照軸』
学文社、2022年12月発行 ISBN978-4-7620-3196-0
税込み2200円(本体価格2000円+税)